

令和2年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立北上中学校
教諭 三浦 和彦

1 はじめに

生徒はこれまで日本国憲法及び基本的人権について学習し、国民が納税の義務を負うこと（憲法第30条）を学んだ。

租税は、政府が健全な経済活動を行っていくために欠かせない主要な財源であり、国民あるいは地域住民が納税を通じて国や地方公共団体を支えることは受益者として当然のことである。このことをやがて社会を支える立場になる中学生が理解することはとても大事なことである。

しかし、個人個人で収入は異なるものであり、租税の負担能力には大きな差が生じる。したがって、税制は消費税などのように一般に広く負担を求めたり、所得税などのように支払い能力に応じて負担を求めたりして、公平を重んじて仕組みがつけられている。本時の授業では、このことを税制の基本として理解させたい。

また、中学生には消費税の担税者としての自覚をもち、消費税やその他の租税に対する関心を高めてほしい。このため、未熟ではあっても税に対する彼らなりの意見や素朴な疑問などの本音を引き出し、できる限りこれらの声をもとに学習を展開し、租税の仕組みや課題などを考察させてみたい。

租税と財政の関係については、1月中旬に経済領域の単元で扱う予定であり、本時の授業は既習の納税の義務について補充・深化を図る学習として位置付ける。

2 生徒の実態

租税教育の実践にあたり、税に関して簡単な事前アンケート調査を行ったところ、結果は以下の通りであった。

<事前アンケート結果>

対象：3年1組男女15名

問い1 税にはいろいろな種類があります。あなたはどんな税の名称を聞いたことがありますか？
(複数回答可)

消費税12人 所得税7人 自動車税4人 関税1人 宿泊税1人

土地税1人 ペット税1人 環境税1人

国税1人 住民税1人 納税3人 脱税1人 税金1人

珍税1人 ひょうい税1人 国民税1人 人間税1人 無回答1人

問い2 問い1で答えた税は、どのような内容の税だと思っていましたか？簡単に書いてください。
(課税の対象や徴税者などについて知っている、あるいは想像していたこと)

消費税について ・物を買う時、国民みんなが払う。3人

・買い物した時、お店に8%か10%の税を納める。2人

・物を買うとプラスでお金がかかる。2人

・物やサービスなどを消費する際にかかる税。1人

・国が負担するお金（医療費や保険など）の源。1人

所得税について ・給料（所得）から引かれる税。1人

・給料をもらったからちょっと取られる。1人

自動車税 ・駐車場と軽自動車。1人

国税について ・国が負っている公務の経費。1人

無回答4人

問い3 これから税の仕組みについて学習し、税に関してあるテーマで討論する学習を行います。

どんなテーマを希望しますか？

A 税の公平性（税の集め方、税率など）6人

B 税の使い道（国税と地方税とのバランスや用途）7人

C その他（具体的に）0人

無回答2人

税目については、15人中12人の生徒が消費税を挙げることができた。しかし、名称程度は知っているものと想像していた所得税は半数以下の7人、自動車税はわずかに4人であった。歴史的分野で学習した関税、新型コロナウイルス第一波と同時期に県内のニュースで話題に上った宿泊税に至ってはどちらも1人に過ぎず、税目に対する生徒の予備知識や関心は大変心許ないものであった。

また、消費税の内容について、消費税率10%と軽減税率8%を挙げた生徒はわずかに2人で、他の税に関しても理解や関心が希薄であることがうかがえた。

税に関する討論のテーマについては、公平性と使い道とそれぞれ半数ずつに分かれた。

3 指導にあたって

生徒の実態を踏まえ、網羅的に多様な税目や内容を扱うことは避け、生徒にとって最も身近な消費税と7人が名称を挙げた所得税の2つに焦点をあてて本時の学習を展開する。

税制一般については、国税庁ホームページ「税の学習コーナー」発展編（中学生向け）の効果的な学習資料を適切に活用して、生徒の理解を深めるようにする。

消費税については、レシートをもとに消費税率と軽減税率の課税対象の違いを確認させ、課税方法の公平性や問題点を考察させて、消費税に対する理解を深めさせたい。

また、所得税については、課税所得が330万円と331万円の2つの場合で納税額にどれだけの差が生じるか、計算によって比較させる。これにより、課税所得の差に対して納税額の差が適正に調整される超過累進課税が、合理的で公平な課税方法であることを理解させたい。

消費税と所得税それぞれの課税の仕組みや公平の考え方が理解できれば、他の税目やそれらの課税の仕組みについても、いくつかは類推して理解することができ、関心を高めることができると考える。

4 授業について

題材名	納税の義務と負担の公平
目標	消費税と所得税を例に課税の仕組みを学習し、負担の公平について多角的・多面的に考察して、税制に対する理解を深めるとともに関心を高める。

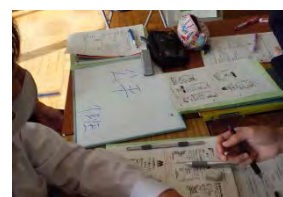
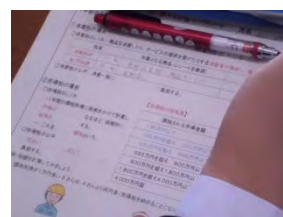
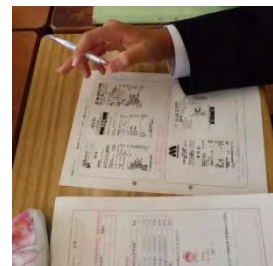
5 学習過程

段階	学習活動	形態	教師の支援及び指導上の留意点
導入 5分	<p>1 納税の義務の平等と負担の公平</p> <p>○税金は国や地方公共団体が行う公共サービスの財源となっている。</p> <p>○納税の義務の平等性を確認する。</p> <p>○税負担の公平の必要性を確認する</p> <p>2 本時の目標の確認</p> <p>○税負担の公平はどのように調整されているのだろうか？</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁「税の学習コーナー」発展編（中学生向け）の「税の意義と役割」を参照して確認させる。 ・納税については、義務の平等と負担の公平を重んじるべきことに気付かせ、本時の目標を提示する。 ・目標をワークシートに記入させる。
展開 37分	<p>3 消費税の仕組みと負担の公平（15分）</p> <p>○消費税率と軽減税率の2つの税率と課税対象を確認する。</p> <p>○飲食物の店内飲食は10％、持ち帰りは8％の税率であることを確認する。</p> <p>○消費税の負担は公平か否か意見交換し班内の意見をまとめて発表する。</p> <p>4 所得税の仕組みと負担の公平（22分）</p> <p>○所得税の税率表を確認する。</p> <p>○税率表から単純に課税所得330万円の税額を33万円、331万円の税額を66.2万円と試算し、税負担が公平か否か意見交換し、班内の意見をまとめて発表する。</p> <p>○累進課税の正しい理解に基づいて税額を計算すると、差は2千円になることを確かめ、税負担が公平か否か、再度意見交換し、班内の意見をまとめて発表する。</p> <p>○所得税の公平と消費税の公平の考え方の違いを整理し、税負担に対する自分の考えがどのように変化したか発表し合う。</p>	<p>班</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>↓</p> <p>班</p> <p>一斉</p> <p>↓</p> <p>班</p> <p>一斉</p> <p>↓</p> <p>個別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レシートから消費税率と軽減税率、それぞれの課税対象を読み取らせる。 ・イートイン脱税について補足する。 ・班ごとに出た意見をホワイトボードにまとめて発表させる。 ・はじめに累進課税の誤った理解に基づいて税額を試算して比較させ、不公平や不合理な点を指摘させる。 ・班ごとに出た意見をまとめて口頭で発表させる。 ・次に、累進課税の正しい理解に基づいて税額を試算して比較させ、累進課税の公平性や合理性に気付かせる。 ・班ごとに出た意見をホワイトボードにまとめて発表させる。 ・税負担の公平については、様々な調整の仕方があることに気付かせる。 ・何人かの生徒を指名して発表させる。
終結 8分	<p>6 本時の学習の振り返り（8分）</p> <p>○税負担の公平がどのように調整されているか、学習に基づいて記述してまとめる。</p>	<p>個別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをワークシートに記述させる。

6 実践を終えて

(1) 学習後の生徒の感想（ワークシートの振り返りから）

- ・食料品の消費税率は8%，それを除くものは10%であるということを知らなかったの、消費者として自分たちがどのような制度で税を納めているか知ることができてよかった。所得税と累進課税の仕組みは、所得差に応じて納める税額が違うので公平でよいと思った。
- ・消費税の8%の軽減税率は食料品が対象なのが分かった。所得税の計算は平等だと分かった。
- ・消費税率と軽減税率の違いがあまり分からなかったけど、分かってよかった。ただお金を取っているのではなく、しっかり（公平を）考えて取っているんだと思い、少し安心した。
- ・今までレシートはあまり見なかったけど、これからは少しでも見るようにしようかなと思いました。
- ・消費税に対しての問題がいろいろあって驚いた。
- ・100円のものを買ったら税は10円程度なのに家電や車など高価な物を買ったときは何十万もかかるのがなぜなのか分からなかったが、今日学んで税制が工夫されていると思ったし、自分で調べてみようと思う。
- ・所得税の負担は公平で、不公平にならないようにしっかり決められていることが分かった。累進課税は納得できたけど、消費税は税率がだんだん高くなっているから大変だと思った。
- ・消費税の軽減税率はちょっと分かりづらかったけど、所得税の累進課税制度はすごく調整されていていいと思った。
- ・所得税の負担の公平は累進課税によって調整されていることが分かった。
- ・金をたくさん持っている人からたくさん払ってもらって、低所得の人からある程度支払ってもらって累進課税で公平になっているんだなと思った。
- ・累進課税は所得が多い人も少ない人も払うが、おもに多い人が少ない人より少し多く払うのが分かった。
- ・なんか不公平かも・・・と思ったけど、実はたくさんの工夫で、人に合わせて公平につくられていると分かった。
- ・ちゃんと考えられている。細かいところまで。
- ・国民全員が平等になるように工夫されていて、日本は考えてるな～と思いました。累進課税はいいなと思いました。
- ・金は大事だが、税は細かくて難しい。



(2) 成果と課題

- 消費税の公平について、「収入のない子供たちも同じ負担を負うのは不公平だと思う」という意見と「みんなで同じ負担を負うのだから公平だと思う」という生徒の対立意見をもとに、考察を深めることができた。
- ほとんどの生徒から所得税の累進課税制度について理解することができ、税の公平性や平等性に気付いたという振り返りの記述を見取ることができた。
- 経済活動や税に対する関心の希薄さや知識の乏しさが表面化し、多面的・多角的な見方や考え方についても教師の例示に頼りたがる受け身の学習態度を克服するには至らなかった。
- 今後、租税と財政の学習に向けて、来年度予算に関する報道等に関心を向けさせるようにしたい。

税に関する学習ワークシート

<学習の目標> 税負担の公平は、どのようにして調整されているのだろうか？

①消費税の場合

○消費税のしくみ…商品を消費したり、サービスの提供を受けたりする**消費者が負担し、事業者が納税する。**

税率	対象となる商品(レシートを参照)	問題点
消費税率 10%	すべての商品やサービス, 店内飲食の食料品	
軽減税率 8%	持ち帰りの食料品	イートイン脱税

○消費税の公平…消費**一般に広く公平に**負担

②所得税の場合

【所得税の税率表】

○所得税のしくみ

…1年間の課税所得に税率をかけて計算し
所得が多くなるほど段階的に税率を高く
する。

→これを**累進課税**という。

○所得税の公平

…**支払い能力に応じて公平に**負担する。

課税される所得金額	税率
195万円以下	5%
195万円を超え 330万円以下	10%
330万円を超え 695万円以下	20%
695万円を超え 900万円以下	23%
900万円を超え1,800万円以下	33%
1,800万円を超え4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

(例) 税額を計算してみましょう

課税所得が1万円多い B さんは、A さんより何円多く所得税を納めることになりますか？



A さん



B さん

課税所得 **330万円**

331万円

所得税額 **33万円**

~~66.2万円~~ …不公平な税負担

23.25万円

←まちがった計算→

← **正しい計算** →

23.45万円 …公平な税負担

③振り返り

消費税や所得税の負担の公平は、どのように調整されていましたか？軽減税率や累進課税などの語句を使ってまとめてみましょう。

.....

.....

.....

.....